

2005年6月15日

ユニセフ\*コープ ネットワーク

# ぽむ・ぽむ通信 No.28

## ラブウォークに挑戦

快い汗をかいて、健康の喜びを開発途上国の子どもたちと分け合うユニセフ・ラブウォーク。もっと具体的に言えば、健康増進運動がユニセフ募金にもなるのがユニセフ・ラブウォークです。日本では 1983 年に導入され、全国で実施されてきました。是非、このラブウォークに挑戦してみませんか？

4月に2つのラブウォークに参加された千葉県支部の福本さんからの便りをご紹介します。

### 4月10日(日)日本ユニセフ協会主催のラブウォーク中央大会

5キロコースに参加しました。日頃は何をするのにも車で移動する事が多く、運動不足の解消に、また東京の自然体験もできたらうな！！とそんな思いで参加しました。

千葉県支部からはお子さんも含めて8名の参加でした。

千葉県支部は2月の終わりにマザー牧場での歩け歩け大会にてユニセフ啓蒙活動を行いました。家族連れの方、ウォーキングサークルの方など大変多くの方が参加してくださり、この企画を通して、今度は自分も参加者として歩きたいと思ったことも私がラブウォークに参加した理由の一つです。今回千葉県支部から参加した8名のうち2名はマザー牧場の歩け歩け大会がきっかけで千葉県支部のボランティア仲間になった方でした。ウォーキングを通して知り合いになり、そのかたたちといろいろおしゃべりしながら歩いていく事はとっても楽しかったです。ユニセフ協会を出発して住宅地をとり自然公園でクイズを行いながら散策し、公園でお弁当を食べたり、お花見をしたりと、とてもゆったりした時間が流れ東京の大都会にいるとは思えませんでした。ちょっと周りを眺めてみれば、たくさんの植物、耳を澄ませば鳥の鳴き声も聞こえるんでね。

ボーイスカウトさんガールスカウトさんやそのほかボランティアの方々が、たくさん誘導などでお手伝いしてくださっていました。お話を夢中になり迷子になりそうなときも、まわりの方達が親切に道順を教えてください、多くの方と交流を深められた事もよかったです。ゴールしたあとは、日本ユニセフ協会のホールにてスマトラ沖地震におけるユニセフの活動のビデオを見たり、お楽しみ抽選会があったりと、楽しみながらユニセフ理解を深める事が出来ました。



桜満開の目黒川沿いをウォーキング



国立自然教育園内でクイズに挑む子どもたち  
©日本ユニセフ協会

## 4月29日(金)に水戸の会主催のラブウォーク in 偕楽園

こちらは、母と自分と娘の3人で参加！！偕楽園公園を3キロ散策いたしました。水戸の会のみなさんがとても優しく迎えてくださり、はじめてあった方たちともユニセフというキーワードでつながっているためか、すぐに意気投合しました。

いばらきコープのみなさんも職員の方が2名、組合員さんでユニセフの活動を自主的に行っているグループの方たちもピースの旗を持ち参加していらっしゃいました。毎年参加なさっているという事でした。

開会式ではこのラブウォークの目的説明はもちろん経口補水塩についての話もありました。途中のチェックポイントでは地雷についての説明・水がめ運び体験・チェッククイズなどとても工夫がされていました。ゴールでは経口補水塩の水を飲み、これってとってもいいなと思いました。おいしかったです。高校生・大学生もボランティアとして参加していて、イベントのアイデアも学生さんたちからの提案などもあったようです。千葉県でもぜひこんなラブウォークを企画してみたいなと思ったこと、そして気軽に出来てユニセフを広めるきっかけづくりとなる、ラブウォーク！！もっともっとひろまって全国各地で行われるといいなと思いました。

(財)日本ユニセフ協会千葉県支部 福本朋子



いばらきコープのみなさんと



## ラブウォークの実施方法

ラブウォークは他の一般的なウォーキング大会と準備や実施面で大きく異なる点はありません。

基本的には

日時とコースを決定する。

参加者集め(広報活動)をする。

当日の実施は、生協のボランティアだけでなく他の個人や友好団体のボランティアにも手伝っていただく。安全を万全に。コースの途中にレクレーションを。スタートやゴール地点にユニセフの支援活動PRなど。後日参加者、協力者にユニセフ協会への募金額を知らせ、次回への参加、協力を促す。

日本ユニセフ協会からは、以下のサポートがあります。

実施マニュアルの送付 バッジや協会のチラシ、ポスター送付 協会のHPで告知

実施のお申し込みやお尋ねは 財団法人 日本ユニセフ協会 ラブウォーク担当

Tel 03-5789-2012, Fax 03-5789-2032 まで

\*この8月には、実施マニュアル(改訂版)ができます。



## (財)日本ユニセフ協会創立50周年記念行事のご報告

2005年6月9日、(財)日本ユニセフ協会は満50歳の誕生日を迎えます。戦後の混乱の中、世界から寄せられた日本の子どもへの支援の窓口からスタートした日本ユニセフ協会は、目覚ましい発展を遂げ、今では資金的にユニセフを支える世界一の民間組織にまで成長しました。

その50周年を記念して、5月1日は、記念行事が東京の両国国技館で盛大に行われました。

お便り:5月1日記念行事に参加して

去る5月1日、(財)日本ユニセフ協会創立50周年記念行事が開催され、ボランティアの一員としてお手伝いさせていただき大変充実した一日を過ごすことができました。

当日、同じ千葉県支部のボランティア2人がボランティア功労者として表彰され、とても素晴らしい先輩をもてたことを光栄に思うと共に「継続することの大切さ」を再認識しました。

また基調講演やシンポジウムを拝聴し、様々な事を感じました。この瞬間にも戦争は起こり、輝く未来があるはずの多くの子どもたちが殺され、傷つき、病気や飢えに苦しみ、さらには性的搾取や人身売買につかわれるなど、悲惨な状況下で暮らしています。

ともすれば、目をそむけたくなるような現実ですが、私たちはそれをしっかりと見つめ知る必要があります。そして時に無力な自分に嫌気がさしても、決して諦めず傍観することなく訴え続け、当然の権利を奪われ苦しんでいる子供たちのために、微力でも自分のできることを継続していく事が大切なのだと思います。

最後に精力的に世界各地の視察を続ける日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんが「自分の子どもたちが、元気に生きてくれていることが奇跡だと思う」と話されました。本当に、その通りだと思います。

その事に感謝しつつ、今日のこの気持ちを忘れずに持ち続け、世界の子どもたちが今より少しでも幸せを感じられるようにお手伝いをしていきたいと思っています。

千葉県支部 酒井奈津子



チルドレンファーストパレード



ボランティア功労者表彰



シンポジウム「危機にさらされる子どもたち」



ユニセフ子どもの祭典フィナーレ  
世界の子どもたちが一緒になって  
「小さな世界」を歌いました。

# この国 どんな国 モルディブ共和国の巻



1190の島々からなる国。  
1000近くは無人島。90近くはリゾートアイランド それをのぞいた島々が居住島だが、人口29万人の

4分の1は首都マレに住んでいる。このマレも1時間ほどで一周できる大きさ。世界で1番人口密度の高い都市の1つです。青い空と海、白い砂浜に恵まれた美しい島がインド洋に散らばる様は「**島々の花環**」と呼ばれています。

1153年イスラム共和国となってから続く敬虔なイスラム教徒の国。主な産業は**漁業と観光**でその美しい自然を求めて多くの人々が訪れる。イタリア、ドイツ、英国が上位をしめ、そして4番目は日本で、その数年間4万人。両産業とも環境との関わりが深く、政府は環境との調和を、共存できる運営方法を指導しています。漁業は伝統的な漁獲方法を維持し、又観光は厳しい環境保護規約を守りながら 大いなる発展を遂げました。

12月の津波の被害は死亡者82人と26人の行方不明者と統計上の被害数値は他の地域と比較して小さいものの、中には壊滅的な被害を受けたいくつかの地元民の島があります。そのすさまじい破壊力の津波は子どもたちに強い恐怖心を植え付けました。ユニセフでは心理的ケア等の支援も行い、復興を願っています。



較して小さいものの、中には壊滅的な被害を受けたいくつかの地元民の島があります。そのすさまじい破壊力の津波は子どもたちに強い恐怖心を植

え付けました。ユニセフでは心理的ケア等の支援も行い、復興を願っています。

## First Steps Maldives

という乳幼児ケアのプロジェクトはモルディブ人における乳幼児への意識に大いに影響を与えた。3歳以下の子どもの生存と保護発展のニーズを保证することであり、成功した。



民族 モルディブ人

言語 ディベヒ語

こんにちは！

ASSALAAM・ALAIKUM

ア・サラーム・アレイクム

通貨 ルフィア

### 略史

1887年 英国保護国となる

1965年 独立

1968年 共和制に移行

1985年 英連邦に正式加盟



モルディブではカレーRIHA(リハ)とHEDHIKAA(ヘディカ)とよばれているショートイーツ(おやつのようなもの)が多くみかけられます。

### 甘いヘディカには

ういろうに似たあまい餅菓子

フレンチトースト風の揚げ菓子

### 甘くないヘディカには

まるいコロッケ、三角形の揚げ餃子タイプ  
春巻きタイプなど

食堂(ホタ)と家庭の数だけいろんな種類のヘディカにあふれています。特産品のツナとココナッツを使い、味付けはカレーやチリが主流。揚げたものが多いです。

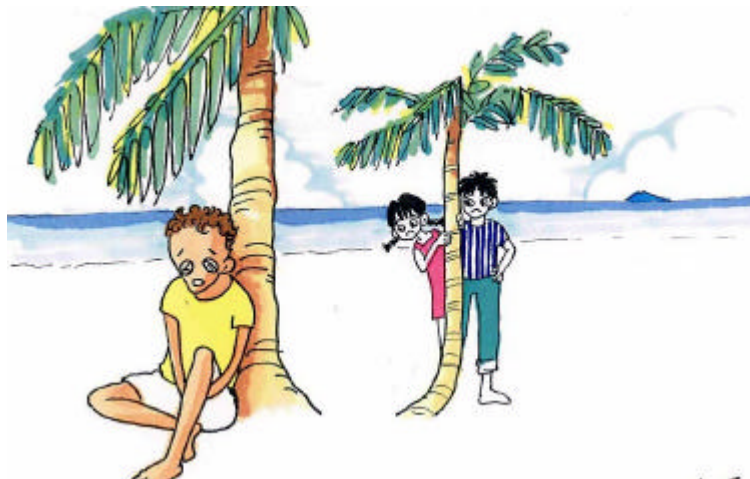




# 世界の子ども達は今

恐怖心を吐き出し  
復興願う

<モルディブ>



**美術療法（アートセラピー）**は、子ども達の回復とストレスやトラウマに立ち向かう一方法として災害直後直ちに開始されました。ユニセフは器具や材料（画用紙、クレヨン、絵の具、粘土）を提供したり、教師の指導を支援しました。子ども達は絵を描くことで、恐怖や悲しみを表現できるようになります。

（文）松本真弓/（絵）蛭沢素子

## <学校への支援>

ユニセフは子ども達が一日も早く日常生活を取り戻すことが重要だと考え、学用品や遊具のセット、150 セット配布しました。学校が、食料、制服、教科書、心理的なケアといった子どものニーズをより多く提供すればするほど、家族の背負っている重荷は軽くなり、それぞれの生活に集中できるようになるのです。



学校は地域社会の中心にあり、校庭に活気が戻れば、心に傷を負った多くの人たちにとっても最善の治療薬になります

## こんなところで募金箱は活躍しています

生協のユニセフ活動では、共同購入や店舗、また組合員が参加した様々なイベントにおいて募金活動が取り組まれています。共同購入では注文書を通じて募金ができるようになっていますが、店舗やイベントでは募金箱が設置されています。その際、ユニセフ活動や募金の趣旨の訴えや募金箱の設置場所にも様々な工夫がされており、今回のスマトラ沖地震津波復興支援キャンペーンでも、こうした工夫が見られます。

こうした各生協での店舗やイベントにおける募金箱や呼びかけの様子について、紹介していきます。

### (コープえひめ)

4月29日、西予市(松山市から70キロ離れたのどかな田園地帯)主催の「れんげまつり」にてコープの飲料販売のかたわら、スマトラ沖地震・津波復興支援募金が取り組みられました。子どもからの反応もよく多くの募金が集まりました。(写真右)



5月12日から始まった地区別総代会においても、全会場に募金箱を設置してポスターも展示されました。(左下)

店舗では、全店に募金箱が設置されています。写真は、募金箱にラミネート加工したキャンペーンチラシを貼り付けたもので、アイキャッチ効果は抜群のようです。(右下) 店舗創業祭ジョイント企画として「ユニセフチャリティーバザー」(理事・職員からの物資提供)や「ユニセフグッズ販売」、「スマトラ沖地震・津波写真展」が取り組まれたり、組合員さんのこどもたちがボーイスカウト活動の一環として店頭募金に取り組むなど、様々な機会をとらえて、組合員さんや地域の方々への呼びかけが行われています。





## （コープしずおか）



ユニセフ募金箱は、店舗のサッカートーに  
アクリル製の募金箱（鍵・鎖つき）を、い  
店舗あたり 1 ～ 3 個配置されています。

## （コープこうべ）

店舗のスマトラ沖地震・津波復興支援キャンペーンです。キャンペーン用のぼりが  
目立っていますね。



全国の募金箱の様子をお知らせください。ぼむぼむ通信で紹介します。

## ぼむぼむ広場

ぼむぼむ通信の通算 28 号をお届けします。

全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割  
はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積  
極的に紹介していきます。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意  
見をぜひお寄せください

次号は、9 月 15 日発行です。お楽しみに！

## ユニセフ＊コープネットワーク ぼむ・ぼむ通信

No. 28 2005 年 6 月 15 日発行

編集 **グループ ぼむ・ぼむ**

スタッフ・編集 / 尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・  
松本・山本・林田・北村・茂垣

イラスト / 蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11 階

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>